

平成 28 年 度 学 校 目 標

	視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	① 教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の意欲や関心の高揚に取り組む。 ② 国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。	① セメスター制導入におけるコースの特色を明確に提示してゆく。 ② 「多文化共生力」の根本となる、多面的・多角的視点からなる批判的思考力・協働型問題解決能力の育成をめざす。	① 各教科において教育課程編成の見直しを具体的に検討する。 ② グローバル教育展開に基づく、組織的授業改善を行う。	① 各コースにおいて進路希望に即した教育課程を編成で ② グローバル教育展開に基づく、組織的授業改善を各科目で行うことができたか。
2	生徒指導・支援	生徒一人ひとりの個性を伸ばすことができる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。	① 教育相談コーディネーターを中心として、組織的な教育相談の体制を整備する。 ② 異文化理解への柔軟性を高め、グローバルな社会的な課題への認識を深める	① 月に一度、教育相談コア会議を開催し、問題を抱えた生徒についての情報を共有する。さらに、ケース会議を通じて、その情報を職員全体で共有する。 ② 異文化への柔軟性を育てるため、国際交流プログラムの中身を見直した上で、多彩な交流活動を実施する。グローバルな課題への認識を深めるため、グローバル教育エキスパートレクチャーなどを実施する。	① 教育相談コア会議の場で提示された情報を、職員全体で共有することができたか。 ② 国際交流プログラムの中身を見直し、異文化理解への柔軟性を育てることができたか。グローバル教育エキスパートレクチャーなどを通して、グローバルな課題への認識を深められたか。
3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて早い時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	自己目標発見機会のタイムリーな提供と進路情報リテラシーを育成する。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャー、外部講師による進路説明会等を実施する。 ② 校内模試の実施、校外模試・オープンキャンパス・学習ツール等に関する情報や入試に関する情報を提供する。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャーの実施やオープンキャンパスへの参加により生徒の意識に変革はみられたか。 ② 学習ツールの利用により生徒の学習状況に変化は見られたか。

4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 信頼される学校づくりを推進するために、地域との連携を深める。 ② 高大連携を通して交流を深めるとともに主体的・能動的に学習に取り組む姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 隣接する二谷小学校やみどり養護学校と連携した活動を、部活動・同好会や有志を募り、行う。また自治会長や学校周囲の個別訪問により、スポーツ大会や翔鷗祭の準備と当日の教育活動について、理解と協力を得る。 ② 受動的な出前授業だけではなく、積極的かつ意欲的に取り組み連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 取組を通して、信頼される学校づくりを推進できたか。 ② 高大連携のテーマに即して積極的な活動できたか。
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員一人ひとりが事故・不祥事の防止に取り組む意識を持ち、常に複数体制で業務にあたる。 ② 本校のさまざまな取り組みを HP 等で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事防止研修会を各グループが企画し、時期に合わせて実施する。 ② HP、広報誌等での広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事の防止に職員が自分のこととして意識し、取り組んだか。 ② 迅速かつわかりやすい情報発信ができたか。